



市民が主人公

2024年4月
No.33-2

発行: 日野・市民自治の町をめざす会
〒191-0062 日野市多摩平5-3-7 第3モリヤコーポ103
携 帯: 070-6965-1435
e-mail: se.aruga@gmail.com
HP : <https://aruga-hino.wixsite.com/aruga/>

退院しました

昨年9月から入院療養を続けておりましたが、2月下旬に退院し議会に復帰しました。

入院治療中には多大なる激励やご支援を賜り、有難うございました。

まだ万全ではありませんが、自転車でも移動できるまでに回復しました。

今後も皆様と共に、日野市民が主人公の市民自治を実現するため邁進して参りますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2024年4月

日野市議会議員 有賀 精一



2024年第一回定例市議会（3月議会）終わる

いつまでも財政緊急事態宣言を続けるのではなく、市民に寄り添う予算を！

主な議案	あるが 賛否と理由	議会議決
令和6年度日野市一般会計予算	× 学校給食の無償化が見送られたため	○
令和6年度日野市後期高齢者医療特別会計予算	× 出産一時金を後期高齢者医療会計に負わせることになるため	○
令和6年度日野市土地区画整理事業特別会計予算	× 市施工区画整理事業へ真摯な検証・反省と今後の進め方への見直しが不鮮明なため	○
日野市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	× マイナンバー制度が抱えるセキュリティの脆弱性と情報の一元管理の危険性があるため	○
日野市等の調査において、なお説明が必要とされている河内元副市長をめぐる問題に関し特別委員会を設置して調査・説明を行うことを求める動議	○ 市に説明を求めるだけでなく、市が組めない部分を議会が説明する責任があるため	×
その他39議案	○	○

市長の施政方針に対し問う

議会2日目冒頭の市長による所信表明に対して、①学校給食の無償化を見送ったこと ②重要課題である市政の腐敗を改める施策や法令順守については一切触れていないこと ③市民に対して財政非常事態宣言を発出し続けること について市の姿勢をただしました。

市長からは、①財源がないので国に要望していく ②所信表明では触れていないが、そ

れらにも取り組んでいく ③過去最大となる規模の予算執行のために財政調整基金（市の預金）を取り崩すので、非常事態宣言は継続する、との答弁。

現在の日野市の財政状況は、多摩26市の中でも遜色ない水準なのに、市民に我慢を強いるために継続している財政非常事態宣言は、早急に取り下げるべきです。

【一般質問】

震災対策や学校の断熱対策を問う

震災対策： 耐震補強は公共施設や社会インフラだけにとどまらず、民間の建物の耐震化にも取り組むことや、万が一の発災時には市民のいのちを守る避難所運営の準備が必要です。

学校の断熱対策： 温暖化が進む中、子どもたちの学びの場の環境確保のためには、校舎の断熱化を早急に進めなければなりません。

市政腐敗への真相究明について問う

市政腐敗の真相は市による説明調査が進みません。土地区画整理組合問題や保育園問題への河内氏や堀之内氏の関与や、修繕をめぐる官製談合疑惑に対して、日野市は警察の捜査や住民訴訟裁判のゆくえを眺めるだけでなく、市長が責任をもって調査すべきです。

真相を究明する責任は、市政のチェック機能を果たせなかった市議会にもあります。

★クリーンなまち 公正公平なまちへ

日野市が行政運営についての情報を市民に公開し、「市政に市民が参画するまち」をつくること。市が「説明責任を果たすまち」にすることが何より必要です。

積極的に情報開示することで市民によるチェックの目が入ります。それにより市側も緊張感をもって行政運営にあたることができ、今後は副市長問題のような明らかな市政の腐敗を起こさないことになるからです。

また、市民の福祉増進のために財政が健全に機能する「財政民主主義のまち」にしなければなりません。

★子育て支援No.1のまちをめざす・・学校給食無償化問題

3月議会では、学校給食の無償化が大きな議論となりました。

23区はほぼ無償化。東京都は市町村にも無償化のための財源の半額を補助する方針を示しており、多摩地域においても12の自治体の実施を決めました。



本来、学校給食無償化は、義務教育費と同様に国の財源で負担すべきですが、自治体の中には「1年で終わるかもしれないが、財源を確保して無償化する」という心意気のある首長もいます。一方で日野市長は財政緊急事態を口実に予算化しませんでした。

市長の決断があれば実行可能な学校給食の無償化（日野市負担約4億円）こそ、最優先で実現すべき課題です。子どもたちの命の問題です。未来を創るのは今の子どもたちです。

三上智恵監督新作映画紹介「戦雲（いくさふむ）」 ポレポレ東中野で上映中

8年ぶりとなる三上監督の新作は、南西諸島の与那国島・宮古島・石垣島にミサイル基地が建設されていく様子が描かれる。

「再び沖縄が戦場になるのはイヤだ」と憤る島民の願いを押し潰していく。闘いや痛みの作品と思いきや、本作品では沖縄の文化行事、与那国島のハーリー、勝連地域のエイサー、一人の古老の島人の漁や自然も豊かに、そして丁寧に描かれる。

昨年、高幡不動でのスピノフ上映支援と講演会で、三上監督は「敵を作らずに描く そして祈りを込めて作った」と語った。

この作品にふれて、監督とちょっと話がしたいと思った。（立山）



【For the future・・未来に向かって】

こども食堂「みんなのくれよんランチ」運営して / 多摩平在住 I.S

昨年3月25日にしんめい橋地区センターでこども食堂「みんなのくれよんランチ」をスタートしました。毎週土曜日のお昼に、ボランティアの方々や実践女子大学の学生たちの支援を受けて運営しています。

1年が経ち、今ではランチを目当てに階下のしんめい児童館を訪れる子どもや親子連れも増えました。他の子がぬか漬けを食べるのを見て自分も食べられるようになったと喜ぶ子もいて、食育の一端を担っていると感じます。また、乳幼児を育てるお母さんたちの憩いの場としても喜ばれています。

全国に多くのこども食堂が開かれ、さらに子どもたちの笑顔が広がっていくことを望んでいます。また、もっと行政からの支援があれば、運営者の後押しとなるものと思います。

「みんなのくれよんランチ」が、子どもたちの健康や子育て世代を応援し、赤ちゃんからお年寄りまで、地域の人たちの居場所として定着するよう、これからも頑張っていきます。

